

サダコと折り鶴の物語

1945年8月6日8時15分、人類史上初めての原子爆弾がT字型の相生橋近くにあった島病院上空600mで炸裂し、その年の12月末までに、約14万人が亡くなりました。佐々木禎子さんも2歳のときに爆心地から約1.7kmのところまで被爆しましたが、外傷もなく、幟町小学校に入学し運動の得意な元気な少女に成長しました。ところが、被爆から10年後、6年生のときに突然白血病を発症し、幟町中学校に入学はしましたが、入院したため一日も学校には通うことができませんでした。入院中、鶴を千羽折ると病気が治ると聞き、千羽を超える鶴を折りましたが、8か月の闘病生活の末に亡くなりました。

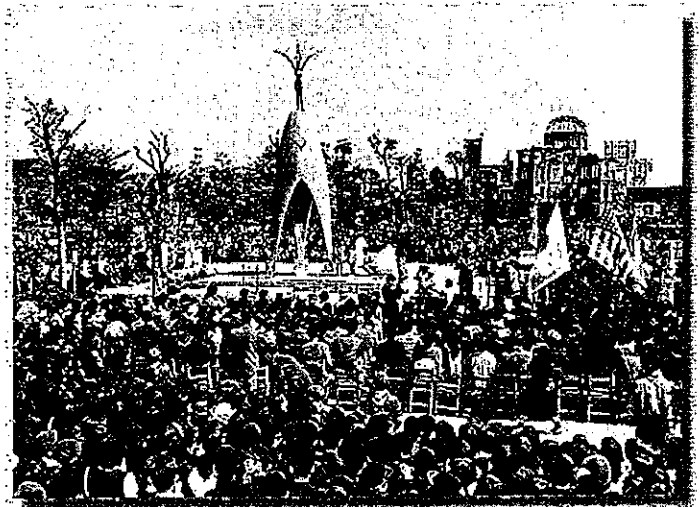
佐々木禎子さんの同級生たちは、禎子さんの死に大きな衝撃を受け、これをきっかけとして、禎子さんために何か自分たちにできることはないだろうかと考え、「原爆で亡くなった全ての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と呼びかけを始めました。

同級生たちの思いから始まったこの呼びかけは、市内の小・中・高等学校を巻き込んだ大きな運動に発展し、「像の建立を通じて原爆の実態を知り、平和について考えよう」と、市内各学校の生徒会が参加して、自発的に「広島平和をきずく児童・生徒の会」を結成しました。さらに運動の輪は全国にも広がり、運動の趣旨に賛同した人々から多くの募金が寄せられました。

建立の運動を始めて2年半、こうした多くの人々の努力が実を結び、全国の3,000を超える学校や海外からの支援により、1958年5月、平和記念公園内に「原爆の子の像」が完成しました。このように、子どもたちの純粋な思いから始まった運動が「原爆の子の像」の建立につながり、「サダコと折り鶴」の物語は絵本やアニメなどの題材となって世界中に広がりました。今日では、折り鶴は核兵器廃絶と世界恒久平和を願う世界中の人々の象徴となり、毎年1,000万羽以上、重さにして10トン以上の折り鶴が原爆の子の像に届けられるようになりました。



2歳の時に被爆し、10年後に白血病を発症し亡くなった佐々木禎子さん。鶴を折ると病気が治ると信じ鶴を折り続けた



禎子さんの友人たちが禎子さんの死を悼み、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰めるため、全国に募金を呼びかけ完成した原爆の子の像(除幕式)



佐々木禎子さんが折った小さな鶴
平和記念資料館に展示されている

折り鶴の保存・展示について

原爆の子の像に捧げられた折り鶴は、周囲に設置している折り鶴ブースに1～2か月間展示した後、市の未利用施設で保管するとともに、そのうちの一部を旧日本銀行広島支店で展示しています。



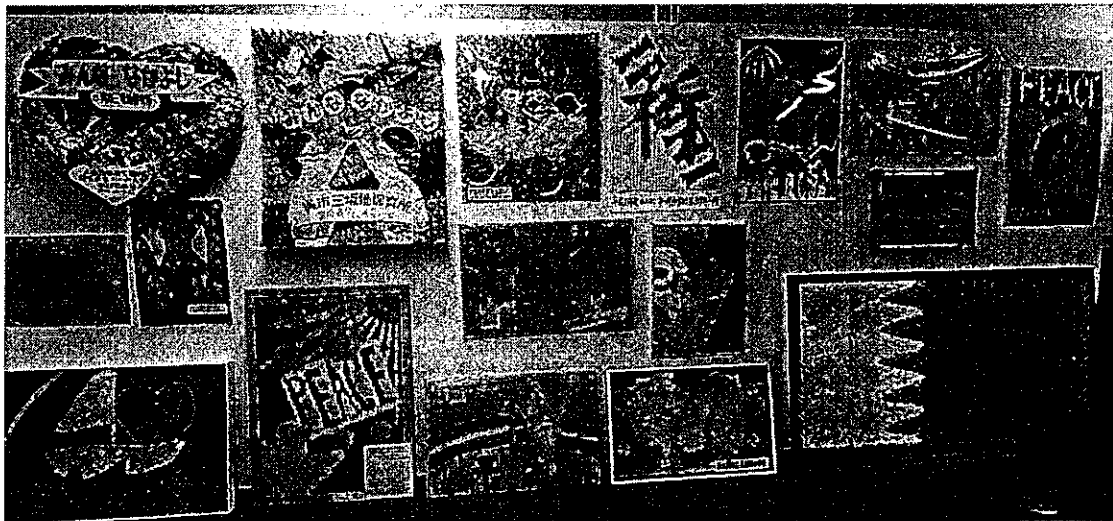
原爆の子の像の周囲に設置した折り鶴ブース



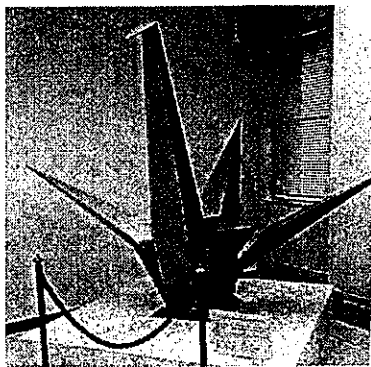
旧日本銀行広島支店では、平成 21 年度 (2009 年度) に捧げられた約 12,000 束 (約 1,200 万羽) の折り鶴を展示しています。このほか、サダコと折り鶴の物語のポスター展示や折り鶴体験室の設置、連鶴作品やパネルの展示等も行っています。



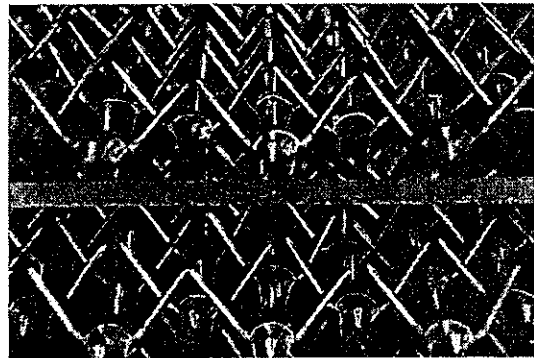
2009 年度に原爆の子の像に捧げられた1年間分の折り鶴約 1,200 万羽を展示しています



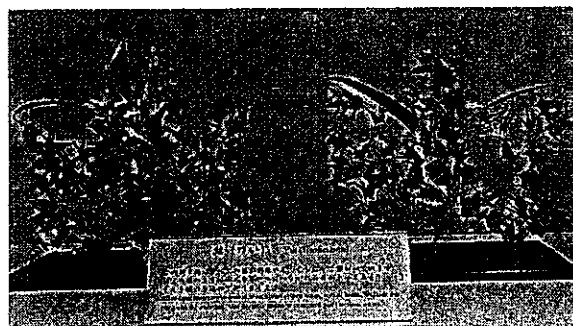
切り絵のように小さな折り鶴を一つずつ並べて作られた折り鶴パネル



(左の写真)
バリ市から贈呈された幅3m、高さ2mの鋼鉄製の折り鶴



(右の写真)
鋼製の折り鶴



加賀友禅の和紙を使用した連鶴作品。すべての鶴が羽根や尾、くちばしでつながっています